ではないか。

▽**岩﨑憲郎町長**
過疎高齢化で人口が減ってきたからという理由で、行政が一定の区域に集める政策をとるべきでない。住民が住み慣れた場所で安心安全に暮らせるようサポートをし、必要な行政サービスを届けることが重要であると考える。

▽**前野由和議員**
住み慣れた所に住み続けられる施策が最善だが、次の一手を考えた対応を要請する。

▽**岩﨑憲郎町長**
生活をしていく上で、行政が必要なサービスを届けていけるよう努力することが大切だ。周囲に人が住まなくなって生活維持が大変だから中心地の便利な所へ移り住んでと誘導することはできない。個々の要望に沿って解決を図る中で移転、町住宅の選択ということはあり得る。ニーズに沿った解決方法を探っていく。

QA 3

問　移動手段確保に万全を　地域巡回のバス運行を望む

答　公共交通全体を見直し、検討する

▽**前野由和議員**
本町は住民が利用する施設が点在しているので、公共交通を利用しようとしても移動に不便である。一定エリアを巡回するデマンドバス（タクシー）を運行できないか。

▽**岩﨑憲郎町長**
住み慣れた地域で住み続けるためには、移動手段確保は重要であり、住民の足の確保のためさまざまな取り組みを進めて対応しているが、利用者数の減少などの課題への対応を迫られている。今後町内全域の公共交通を見直す中で個々の問題、課題も検討する。

町民バス

QA 4

問　鳥獣被害対策を強化せよ　被害は生きがいを奪うことに

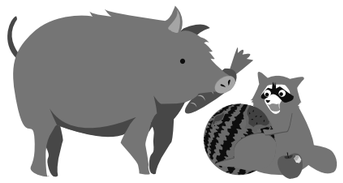
答　対策を更に進める

▽**前野由和議員**
シカ捕獲の小型檻が威力を発揮しているとのテレビ放送があった。
狩猟者に委託実証しての取り組みを要請する。

▽**岩﨑憲郎町長**
放送内容を確認していないが、専門家の意見なども聞き、効果ある方法なら検討する。

▽**前野由和議員**
収穫物の確保に止まらず農に親しむ暮らしを生業としてきた高齢者の生きがい対策としても重要と考える。
マダニによる感染症被害など衛生防疫面での対策も必要になってきた。
強力な執行を要請する。

▽**岩﨑憲郎町長**
ツツガムシ被害は数年前に何件か発生したが、マダニ被害によるSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は数年発症被害がない。今後は駆除の徹底だけでなく防護服装の必要性も広報したい。



QA 5

問　大規模災害への備えは　頻発する災害への対応を図れ

答　適時適宜対応していく

▽**前野由和議員**
何十年に一度と言われる災害が昨今頻発しており、甚大な被害の発生を受けて平成31年度国の予算にも対策費が計上されている。
放置された、ため池や農業用水路が被害の原因となるケースも予測される。
防災対策を要請する。

▽**岩﨑憲郎町長**
本町においても地球温暖化や異常気象が要因となるような自然災害が非常に激甚化、頻発化している状況にあり、生活を営む上で脅威となっている。
この対策として本町のできることは、緩和策として森を適切に管理すること、適応策として災害に強い町づくりを推進していくことだと思っている。今後国の取り組みを注視し、ハード・ソフト両面からの対応を進める。

ため池跡

QA 6

問　福寿草まつり再開　今後の取組について問う

答　地域の元気を支える

小笠原妙子
議員

諸事情により休止していた福寿草まつりが地元有志の方々の努力により再開されたことは喜ばしいことで、17日間の開催期間中に約2，000人の方が訪れた。
再開に当たり主催者に一番大変だったことを聞くと、道路状況ということだ。
30年間続けてきた福寿草まつりを次の時代へ継承するためにも、道路状況の改善や開催への協力など、今後の町としての対応を問う。

▽**岩﨑憲郎町長**
道路の整備については、管理の現状を理解していただく努力を続けるとともに、安全に安心して通行できるよう整備を進める。

▽**小笠原妙子議員**
地元有志の方々も本町を元気にすることが第一の目的であり、コミュニティーの大切さは十分に理解しているが、高齢化の進んだ本町では、町行政の更なる協力が必要不可欠であると思うが、今一番何が必要かという声を吸い上げ、少しでも前進する姿勢が必要では

福寿草まつり